

■第4回 大阪狭山市公共施設再配置計画策定委員会での主な意見

日時：令和6年5月24日（金）10時00分～12時00分

委員：辻^{※1}、清水^{※2}、山村、陸野、津田、大塚、古城、菊屋（敬称略） ^{※1}委員長 ^{※2}副委員長

		委員からの主な発言等（一部、事務局の回答も）
1	再配置するエリアの優先について	・今熊エリアで取り組むことになれば、関連するエリアも同時に動き出すことになるのではないか。 ・短期で再配置を検討する施設の多くが今熊エリアに集まっているのはわかるが、他にも市役所南館やぼっぼ園もある。タウンミーティングでなぜ今熊かとならないか。 ・アンケートを踏まえて今熊エリアを中心に考えていきたいという意図はわかるが、他の地域の人からも意見が出てくると思うので、提示の仕方は工夫したほうが良い。 ・タウンミーティングでは、今熊エリアについて、なぜこのエリアを優先的に進めるのかをあらかじめ提示したほうがよい。 →事務局）タウンミーティングでは、前段で、なぜ市が今熊エリアに焦点を当てたかの説明は必要と考えている。 ・市民はともかく、職員の中で、教育委員会も含めて、今熊エリアを優先するという事で統一されているのか。 →事務局）庁内組織を設けて共有を図っており、市全体を見た中で（学校園を除き）今熊エリアから優先的に進めるという共通認識は得られている。 ・市の北側には文化会館はあるもののコミュニティセンターのように市民が自由に使える施設が少ない。東野や池尻、狭山駅前では交通の便は良いものの買い物には不便で、コンビニもなく、住みにくいエリアであることを知っていただきたい。人口が減ってきている地区も大事だが、増えている地区も対策していかなければ同じ状況になる。
2	再配置の効果の試算について	・削減効果の試算は今熊地区周辺エリアで行うとの記載があるが、削減効果の試算はモデルプランだけなのか。 ・個別建替えの場合と民間に維持管理を委託した場合で、コストがどれだけ下がるかなどを書くべきであるが、今の段階では書きづらい。 ・10年かけて、全体的な試算も出してもらえるとわかりやすいが、抽象的な数字になるおそれもある。中途半端な情報になると逆効果にもなりかねない。 ・計画の中で試算を示すのがいいのかどうかは精査が必要になる。 ・試算ではなく、将来的にこういう効果が期待できるなどといった書き方でもいいかもしれない。
3	総合管理計画の削減目標について	・全体として10%削減しなければならないということがこの素案ではよくわからない。人口が減ってくるから施設も減らす必要があるとの記載はあるが、それを市民にわかるように説明する方法はほかにないか。 ・10%削減は、総合管理計画で掲げていることであるので、背景として総合管理計画で10%削減が提示されたと書いておけば、再配置計画の中でも10%削減は必要として進めていくということがわかりやすいのではないかと。 ・産業誘致やふるさと納税を増やすなど、市として財政を豊かにできる施策があれば、建替えにも市民から賛同を得られるのではないかと。

		委員からの主な発言等（一部、事務局の回答も）
4	タウンミーティングについて	・「イメージ」とは書いているが、参加者に内容が決まっていると受け止められることはないか。 ・多機能複合施設の複合化機能のイメージの中で「子ども若者支援機能」はあるが「子育て支援機能」が抜けているのではないか。 →事務局）子育て支援機能は複合化の中に入れていきたい。現状、〇〇と書いているところに、当日までにその内容を表現しようと思っている。 ・保健センターに定期検診で来られる方が、隣に子育て支援機能の施設があることを知って来られるように、そういった連動性を持った施設になれば良い。 ・交通結節点機能は立地適正化計画でも示されているので、この地域のあり方として、移動ルートがイメージできる図面をどこかに載せてもらいたい。
5	企業へのヒアリングについて	・どういった企業にヒアリングしているのか。 →事務局）まだ焦点が絞れていない部分もあるため、建設業者やゼネコン、コンサル、銀行系など、広くヒアリングを行っている。詳細な事業手法については秋から始まる基本構想で具体化していくが、民間企業から聞き取り調査を行い、最も市に合った事業手法となるよう検討を進めていく。
6	幼稚園とこども園の再配置について	・南第一小学校にこども園を新設するということが、東野幼稚園や東幼稚園に通っていた園児はどこに行くのか。南側へ通うとなるとバスでも遠い。 ・今熊エリアに保健センターや公民館、図書館もあるが、そこに幼保一元の施設を複合化するのは面積的に難しいのか。
7	良好な住環境の維持について	・若い世代にとって、子どもを育てる環境と通勤が近いことが一番。そう考えると大阪狭山市は難波まで20分ほどで行けるため好立地で、なおかつ自然がたくさん残り、子どもを育てるには良い環境でもあるので、それを今後どう維持していくかが大事になる。 ・西山台や大野台では、売却すると複数に分割されることが増えているが、結果として若い人が入り、子どもの数も若干増えているので評価は難しい。 ・敷地が分割されることで地域のブランドは下がるので、それを維持できるかどうか、そう考えると教育施設の充実がポイントになってくる。 ・若い世代は子育てと子どもの教育環境で選ぶと思うので、どう維持するかが大事。 ・まちは5年、10年ではなく、30年、40年、50年かけてできていくものなので、学校をどうするかについても、短期だけで考えるのではなく、長い目で見てどうするかを考える必要がある。
8	その他	・さやま荘の利用者から、さやま荘が閉まっている間はどうかということ聞かれても現時点では答えようがない。令和8年度に工事着手が目標となっているので、社会福祉協議会としても、方向性を決めなければいけない。どの時点でどのように伝えていくか、そろそろ後のことが大事になってきていると思う。